

目的 ウェディングドレスは装飾性が強く、女性にとっての理想的自己表現の一つと考えられる。そこで、ウェディングドレスのデザインの嗜好性と性格についての関係を見出し、ウェディングドレスの理想的自己表現と性格との関係を明らかにすることを目的に、本調査を実施した。なお、本実験では着用状況がより現実に近いと言われているアリスミラーを使用し、そのイメージを分析したが、スライドでのイメージ分析をも行なうことによってその相違点について明らかにしてゆく。

方法 アリスミラーの調査は昭和62年6月～9月にかけて、162名の女子大生を対象に、また、スライドによる調査は昭和62年9月に159名を対象に実施した。いずれも武庫川女子大学構内である。調査法はSD尺度によるアンケート調査で、スライドは集合集団実施である。さらに、前後してYG性格検査を行なった。

結果 ①アリスミラーとスライド双方のイメージを因子分析し、求められた因子を比較した。因子とYGによる性格との関係を求めたが、双方には共通した反応が認められなかった。②ウェディングドレスに対し〈あこがれ〉の大きい人は、「のんきでない性格」がより有意に関連し、〈感動〉の因子が出現していない人は、より「服従的性格」の人が有意に関連していることが明らかになった。③ウェディングドレスに関して〈シルエット〉の因子がよく出現している人は、「客観—主観」軸の両極に位置している人が多く有意に認められた。以上のことから、性格によってウェディングドレスに対するイメージが異なることが明らかになった。